



ラスボスの思想(35)



自己主張

春日信彦

---



# 目次

ラスボスの思想 (35) .....	1
--------------------	---



## ラスボスの思想 (35)

1

### 自己主張

私たちの知識はどこから来たのでしょうか?ほとんどの人は、学校教育のおかげで多くの知識が身についたと言われるでしょう。確かに学校教育から得た知識は多いと思われます。では、学校教育以外ではどのようなものがあるのでしょうか?まず一番に思い浮かぶのは、TVではないでしょうか。実は、TVとインターネットから、日常生活に欠かせない常識を多大に得ているのです。日常会話を思い浮かべてみてください。TV映像から得たニュース、TVドラマ、歌番組、バラエティー番組、ネットゲーム、などの話題が日常会話の大半を占めているのです。

特に、TVによるニュースは国民の常識の基本になっています。ほとんどの人は、ニュースが報じる政府の方針、医療情報、海外の事件、統計数字などを信じています。私たちの常識は、知らず知らずのうちにTV情報によって作り上げられているのです。人は、疑うことよりも信じることを好みます。なぜかと言うと、疑えば、その事案について自分で調べる時間と思考する苦痛を伴うからです。

私たちは、仕事や家事に追われ思考する余裕がありません。また、誰しも思考する苦痛を避けたいくありません。信じることは、時間もかからないし、苦痛も伴わないのです。大人は、仕事で苦痛を伴い、子供たちは、受験勉強で苦痛を伴っています。私たちは、苦痛の毎日を送っているのです。だから、苦痛を解消すべく、飲酒、スポーツ観戦、カラオケ、ゲームなどの娯楽でウサを晴らしているのです。

誰しも、苦痛より娯楽を好みます。だから、自ら苦痛をとまなう思考を求めようとはしません。ましてや、思考の結果が常識とは真逆であったならば、苦痛はさらに大きなものとなってしまいます。さらに、真逆の結果を主張するならば、周りの人たちから疎

外されることになってしまいます。そうなれば、人間関係は悪化し、最悪の場合、職場を失うことにもなりかねません。最悪の事態を想定する私たちは、周りとの協調を最優先して自己主張を避けるようになるのです。

2

自己主張を控えれば、人間関係に大きな問題は生じないでしょう。しかしながら、自己主張をしないことによって有害な常識は大きな顔をしてのさばってしまうことになるのです。確かに、自己主張を控えれば、仲間との関係は円滑になるでしょう。しかしながら、仲間もろとも、有害な常識に支配されてしまうことになってしまいます。そして、いずれその有害な常識によって命を縮められることになってしまうのです。

政府が主導する常識に反する自己主張をすることは、容易なことではありません。娯楽時間を削った調査時間と苦痛を伴う思考、さらに、とても大きな勇気を必要とします。自己主張を貫こうとすれば、政府、職場、仲間たち、と対峙することにもなりかねません。孤立無援の状態に陥ることにもなりかねません。日常生活までも不安定になってしまうかもしれません。家族崩壊になってしまうかもしれません。このような事態を想定してまでも、自己主張ができるでしょうか？ ある国では、自己主張したために国家反逆罪で逮捕されてしまうのです。

歴史上に残るモーセ、キリスト、ガリレオ、ジャンヌダルク、チェ・ゲバラ、ケネディ、彼らたちは、自己主張を貫き通しました。彼らは、幸せな人生を送れなかったかもしれませんが、彼らのおかげで文明は進歩し、私たちは多大な恩恵を受けています。自己主張をすることは、必ずしも幸せを約束するものではありません。もし、保身のために自己主張を控えてしまえば、有害な常識を打破することはできないでしょう。

目には見えない強大な権力と有害な常識を打ち砕くためには、捨て身の勇気を必要とします。まさにすべてを失う決死の覚悟で自己主張をする必要があるのです。誰しも、このような悲惨な人生は歩みたくないものです。おそらく、我々は、政府に従い温和で穏便な人生を歩んで人生を閉じることでしょう。私もその一人と言えるでしょう。政府に従順な人生が幸せなのか、反逆する人生が幸せなのか、だれにもわかりません。神のご加護を心静かに待つのみです。



---

ラスボスの思想(35)

---

著 春日信彦

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---